

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 23



大阪のなつかしさ、ぬくもり
感じるレールと駅舎

軒下走る「庶民の足」

大阪で唯一残るチンチン電車（阪堺電車）に乗ってみました。

阪堺電車の正式名称は「阪堺電気軌道」といい、1900年（明治33年）大阪馬車鉄道が天王寺南詰（現在の天王寺駅前交差点付近）から阿倍野（現在の東天下茶屋）間1.7kmを開業したのが始まりです。現在は、恵比須町〜我孫子道、天王寺〜浜寺まで運行しています。運賃は一律200円。家の軒下を電車が走り、「庶民の足」と呼ぶのがピッタリの大坂に出会えます。何か満ち足りた気分させてくれました。



阪堺電車
路線図
(阪堺電車ホームページより)



柱や梁を表にあらわした「ハーフティンバー様式」の駅舎

威厳と木のあたたかさ 感じる南海「浜寺公園駅」

大阪が舞台の万城目学の「プリンセス・トヨトミ」に影響され、東京駅を設計したことで知られる辰野金吾の設計で、私鉄最古の木造洋風駅舎である南海電鉄「浜寺公園駅」を訪れました。1907年（明治40年）に建てられた駅舎は、1998年に国の登録有形文化財に登録されています。



1日1000円（全14台5000円）で乗り放題の「ついでんき」も

Culture Navi かるちがーなび

一番大事なことは「職場民主主義」だから！



「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

大阪市に採用されて15年間、一番大事にしていることは「職場民主主義」です。「仕事や大阪市政のことなどを気軽に話せる職場」「困っている人をみんなで助ける職場」「明るく楽しく元気に仕事ができる職場」をつくりたいと思ってきました。そのために労働組合が必要だと思い、「大阪市労組」に加入し、組合役員となりました。その「職場民主主義」を壊すものが「アンケート」調査でした。労働組合の存在を「悪い」かのような設問や、他人を密告させるような設問もあり、本当にひどいと感じました。

「働いていて良かった」といえる職場を！

このようなアンケートが許されれば、職場のチームワークは破壊され、職員同士が監視し合うようになり、憲法に定める「全体の奉仕者」として仕事をすることができなくなります。橋下市長は新規採用者に対して「皆さんは今日から公務員です。市民に対し命令する立場となり…」と発言しました。このような市長の下では、住民のための仕事できません。原告団59人の中で僕は最年少です。大阪市の若い職員の人に「大阪で働いてよかった」と思えるような職場を作っていくために裁判闘争に取り組んでいきたいと思えます。

「思想調査アンケート」裁判
原告59人の決意
スタンダップ
No.12 八尾 高志さん

心に響くひとこと

あはれ 秋風よ
情(こころ)あらば伝えてよ
佐藤 春夫 「秋刀魚の歌」

「一男ありて 今日の夕餉(ゆうげ)に、ひとり さんまを食(くら)ひて 思ひにふける と…」と続き、秋風のさびしさをわが身のわびしさに重ねています。詩集「我が一九二二年」(大正12年)に収められており、「さんま、さんま さんま苦しい塩っぱいか」のフレーズで有名です。



(映画の宣伝チラシから)

「許されざる者」

悪に挑むのは金か正義か ハリウッド西部劇をリメイク

1992年にアカデミー作品賞を受賞したクリント・イーストウッドが監督・主演の「許されざる者」。かつてガンマンとして名を知られた男が、家族を養う資金欲しさから一度は捨てた銃を手に、無法の町に向き、壮絶な死闘を繰り広げるというストーリー。

タイトルをそのままに、ストーリーと舞台を西部から明治初期の蝦夷地に変えてリメイクしたのがこの作品。主人公がガンマンから今は開拓地の農民になった元幕府側の武士に、銃を刀にしています。宣伝チラシの主人公の背後からの写真はまさにオリジナル版そのものでした。北海道の開拓地の女郎屋。客に顔

を刃物で切り刻まれた遊女の敵討ちに、仲間の遊女がお金を出し合っつぎと賞金稼ぎの男たちが。新政府の目が届かない最北の地で、遊女やアイヌなどマイノリティへの差別も織り込みながら、一度は捨てた刀剣を向ける相手は「許されざる者」なのか。ラストの刀と火縄銃が炸裂する死闘が壮絶です。監督は、「フラガール」「悪人」の李相日。主人公には「ラストサムライ」などでハリウッド製日本映画にも活躍する渡辺謙。オリジナルでジーン・ハックマンが演じた町を牛耳る権力者を佐藤浩市が存在感を示しています。

上映時間は135分。

わからず屋に対しては対応策は一つだけや
いっさい妥協しないこと これしかないんや
青木 雄二 「ナニワ金融道」

今年没後10年になる漫画家・青木雄二の代表「ナニワ金融道」は金融会社を舞台に資本主義社会の構造とそこにおける人々の苦闘を描いた作品です。このセリフは単行本第6巻に「自分では内心正しくないとわかっている者を相手にするとき」の答えとして登場します。理屈では理解できますが、実践するには強い意志が必要です。これが実践できれば世の中のあらゆる場面で通用しそうです。